【事例3】水やりしているのに、野菜が枯れそう！　子供・保育者の動きと、保育者の動きを支える思い

要領・指針	⑴身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 ⑵身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
保育者の願い	・自分たちで決めた野菜の苗を、生長の過程をよく見て、愛情をもって大切に育ててほしい。 ・野菜の栽培を通して、感じたことや疑問に思ったことを、友達と一緒に考えたり調べたりして、自分たちで考えながら取り組む楽しさや面白さを感じてほしい。 ・野菜の栽培や収穫、調理を通して、食の大切さや有難さを感じてほしい。
生活経験	・野菜の図鑑や栽培方法の分かる本をクラスに設置している。 ・園の畑で野菜を育てている。 ・これまでも、毎年、野菜を育ててきた。

子供の動き　保育者の働きかけ　保育者の思い

A:早く大きくなってほしいから、お水いっぱいあげよう！
B:わたしもあげたい！
C:ぼくもあげる～！
（毎日、何人もがドボドボと水やり）

A:先生、大変！枯れている！

○自分たちで決めた自分たちのゴーヤ。愛情をもって大切に育てられたらいいね。だけど、そんなに水やりして大丈夫かな？どうなるか見守ってみよう。

B:元気がないのは、きっと水が足りてないんだ！
C:もっと水をあげてみよう。

T：やってみよう！

T：本当だね。なぜだろう。どうしたらいいのかな？

○枯れそうなことは知っていたけれど、もうしばらく見守ろう。子供たちはどう感じるのかな？

D:家でお母さんに相談して調べてみたよ。どれくらい水をあげたらいいかは、土を握ってみたらいいんだって。土がまとまったら、まだ土の中に水が残っているってことで、土がバラバラになったら、水が足りないってことなんだって。

T：ずっと水をあげ続けたらいいってことではないんだね。

○子供の提案をクラスで共有しよう。
○どうしたらいいか、クラスみんなで考える時間をもとう。

子供たち:やってみよう！

D:土を握って、水をあげるかどうか考えよう。
A:雨が降ったら水はいらないし、誰かが先に水をあげていたら、その後はもうあげない方がいいね。

B:そっか。私たちも喉が渇いてるときと渇いてないときがあるもんね。

○枯らした経験からの気付きを大切にしたい。自分たちで選んだゴーヤだからこそ、自分たちで育てるルールを決めよう。
○これまでの過程を写真や文字にまとめて掲示しよう。

キーワード：子供に任せる　考え合う